

# それでも、生きたい。

——この叫びが聴こえますか。

## 私たちは訴えます。

「孤独」「無縁」「自己責任」——

目をそむけたくなる言葉が取りざたされる社会。

そんな社会をつくりだしている政治。

「国民生活第一」をスローガンに掲げた政治は見る影もなく、  
政治へのあきらめの気持ちは、いまや全世代に広がっています。

痛みに耐え、受診すらできない。

身寄りもなく、手遅れになっても、助けてとさえ言えない。

いのちは、「財源問題」とてんびんにかけるものではありません。

いのちは、決して何かと引きかえられるものではないからです。

「仕事がないから」「お金がないから」——しかたがない…。

いいえ、それでも生きたい。

この思いに込められているもの。

それは、私たちが絶対にゆずれない、「いのちの平等」です。

**全日本民医連**  
(全日本民主医療機関連合会)

民医連新聞発行所 全日本民主医療機関連合会 発行人 長瀬文雄  
2011年3月2日号外(1966年9月13日第三種郵便物認可) **民医連新聞**

**無保険**  
国民皆保険の国で  
—仕事も保険証も奪われた—

**「手遅れ死」は自己責任ではなく、政治の責任。**

**71歳・男性・非正規雇用・無保険**  
15年前に離婚、代行業に従事していた。住所不定となり銭湯や事務所に寝泊まりしていた。2010年5月食欲低下、下肢むくみ、体重減少、腹水が出現したため友人の強いすすめで受診。当初本人は「保険証がないため病院にかかれぬ。税金も納めていないから生活保護は受けられない」と受診をためらっていた。また「働かないと食べていけない」と初診当日も代行の仕事へ行こうとした。友人のすすめで生活保護申請を行い、入院した。入院後、C型肝炎・肝硬変、肝癌の診断がなされたが、多発肝梗塞にて死亡。

**ネットカフェ生活の末…**

**32歳・男性・無職・無保険**  
重度の喘息のため高校を中退、定職につけずアルバイトや日雇いの繰り返しであった。2009年夏、離島でのアルバイトで多少貯えがあったが、10月末母親の家を出ざるを得ない状況になり、12月までネットカフェ生活となる。いよいよ貯えもなくなり、生活保護を受けている父親のところに転がり込むことに。2010年1月26日、救急車で搬送され糖尿病性ケトアシドーシスと診断、即入院となったが10日後に死亡。

**病の疑い知りながら。**

**59歳・女性・無職・短期証**  
阪神大震災後、家族なく遠い親戚をたより転居。パートで仕事をしてきたが、家賃が払えず知人宅に居候させてもらっていた。その後、仕事をやめ他を探すがみつからなかった。その間、献血でB型肝炎の疑いを指摘されるも受診はしていなかった。初診時、腹水がたまり歩くのもやっとの状況で、即入院となった。検査結果は手の施しようのない肺がんで、自宅療養をへて再入院後、死亡。

「助けて」と言えなかった。  
政治が言わせなかった。

**自己責任でなく、権利としての「社会保障」を。**

**生活保護廃止が招いた死。**

**44歳・男性・無職・生活保護→保護廃止**  
糖尿病を患っていたが、三交代職場でインシュリン注射ができないため退職した。母親と同一世帯で生活保護を受給し治療を行っていた。2010年3月に行政処分の形で就労指導を促され生活保護は廃止、以降治療を中断していた。求職活動はしていたが、経済的困窮でインシュリンも打てなくなるほど身体が弱っていった。家にはエアコンもなく、母親は少しでも風が通る、玄関近くに布団をひいて寝かせていた。やがて水も受けつけなくなった。母親が異変に気づき救急車で搬送されるがすでに心肺停止状態、3日間の集中治療もむなしく死亡。

**「受診拒否」の本当の理由**

**無保険が強い、限界を超えたがまん。**

**46歳・男性・非正規雇用・社会保険→無保険**  
早朝5時に自ら運転して受診。前夜から胸痛があり、がまんできなくなり受診した。社会保険があった時は大動脈解離で他院での入院歴もあったが、無保険になり中断していた。検査中に心肺停止し、そのまま死亡した。

**正規保険証** これではただの紙切れ  
—保険証が使えない—

**初診から死亡まで、わずか10日足らず。**

**68歳・男性・無職・国保**  
2010年12月17日に無料低額診療を利用して受診。半年程前からお腹がはっていたが、お金が無く受診を控えていた。1週間前からがまんできない程の痛みとなり、当日は検査し、翌日に再度受診。肝機能障害の疑いで、即入院となったが12月26日、腹壁腫瘍・出血性ショックで亡くなった。

**保険料を払い、窓口負担が払えない。**

**84歳・男性・年金・後期高齢**  
2009年末より食欲不振、顔色不良を理由に妻のケアマネジャーが受診をすすめていたが、「医療費が払えない」と拒否。息子の仕事(自営業)も経営難でやりくりが精一杯。状態は好転せず、無料低額診療を利用して受診。結果は末期の胃がんだった。入院をすすめるが「最後になるかも」といったん帰宅後、再入院4日目で死亡。

全日本民医連  
「2010年国保など死亡事例調査報告」より

**さらに広がる不安——迫るいのちの危機。**

**新高齢者医療制度と国保都道府県化で「保険料も窓口負担もUP」?!**

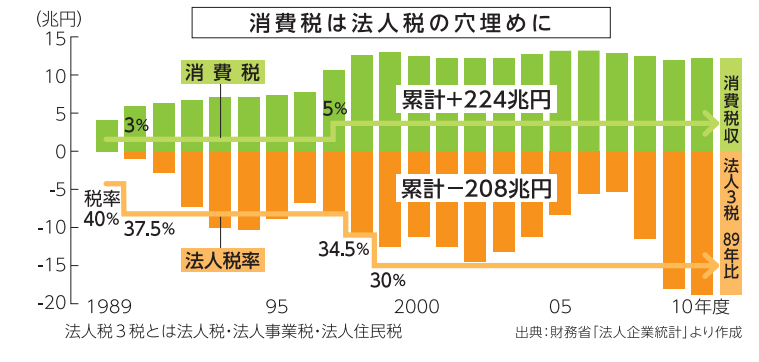


**税と社会保障の一体改革で「消費税10%」?!**

**社会保障を削るか、消費税を増税するか**

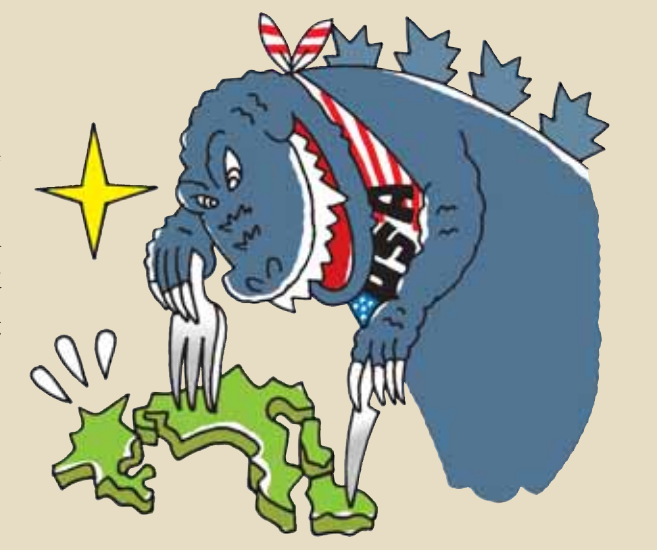
実際には医療も年金も福祉も切り捨てばかりで、その上さらに消費税増税をもくろんでいます。

**消費税は社会保障に使われていない!**  
消費税率と法人税減税は累計でほぼ一致しており、消費税の税収が大企業向けの減税に回ったことになっています。しかも大企業はこの10年間でても、内部留保は100兆円も増やす一方で、サラリーマンの給与を30兆円も減らしました。



**TPP 環太平洋連携協定 平成の“壊国” No!**

例外のない関税撤廃——対象は農産物ばかりではありません。物品に限らず、金融・保険・通信・運輸・教育・娯楽など、あらゆる部門が対象です。規制緩和と称して、医療をはじめさまざまな部門がグローバル競争にさらされます。アメリカはTPPで医薬品、医療材料、民間保険、株式会社の医療経営参入など完全輸入自由化を求めています。これでは国民皆保険制度や地域医療の崩壊を招きます。

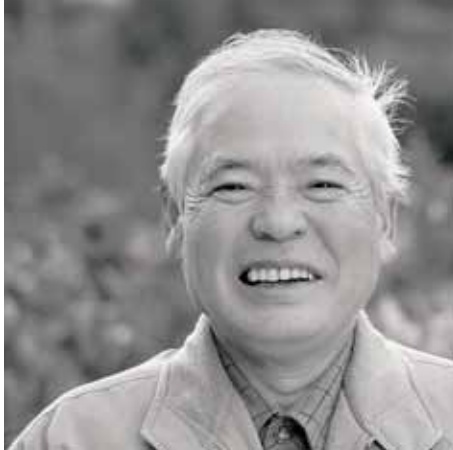
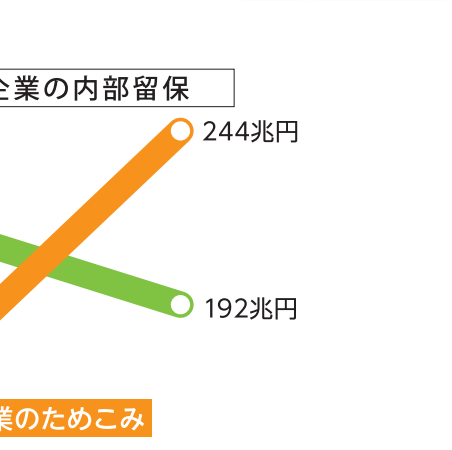




憲法25条  
第1項・すべて国民は、健康で文化的な

最低限度の生活を営む権利を有する。

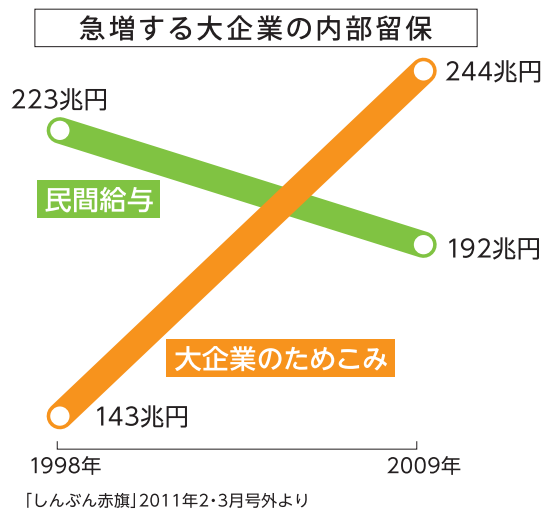
25  
9  
条を  
活かし、  
生きる。



「いのちの平等」に、  
理由も例外もありません。  
いのちは自己責任ではなく、  
政治の責任で守られるべきものです。  
私たちのつながりと運動、  
そして明確な意思表示で、  
政治は必ず、変えられます。

## 消費税に頼らなくても 財政再建は可能です。

- ▶ 大企業の利益にふさわしい負担を
- ▶ 税金は「応益負担」ではなく「応能負担」に
- ▶ ぼう大な米軍予算、防衛費(世界5位)の削減を



## このまちで生きつづける。

この春、自治体をいのち守るとりでに――

住民の運動で、自治体はいのちを守る防波堤にもなります。  
高すぎる国保料に対し、各地で値上げの見送りや  
保険料引き下げ方針を決定しています。



2011年1月20日「しんぶん赤旗」



2011年1月26日「しんぶん赤旗」

### 「民医連」とは？

いのちの平等をかけて58年一差額ベッド代を徴収しない、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。  
医療・介護・福祉でお困りのことは、お近くの民医連事業所へ。

〒113-8465 東京都文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター7F  
TEL03-5842-6451 FAX03-5842-6460  
URL <http://www.min-iren.gr.jp>